

# 早熟でモザイク病や倒伏に強い 納豆用極小粒大豆新品种「すずほのか」

納豆はビタミンやミネラルに富み、消化吸収もされやすく、整腸作用、抗菌作用、抗血栓作用が期待できる食品です。近年の健康志向の高まりから、こうした大豆製品に関する知識が広まり、納豆の消費量が増加し、納豆用品種も堅調な需要があります。今回、新たに東北農業研究センターで育成した納豆用極小粒大豆品種「すずほのか」について紹介します。

大豆育種研究東北サブチーム

河野雄飛

KONO, Yuhi



すずほのか

コスズ

写真1：「すずほのか」と「コスズ」の熟期と耐倒伏性の違い

ルスに強く、「コスズ」より褐斑粒の発生が少なく、紫斑粒や裂皮粒の発生も少ないという特長があります（図1）。子実は極小粒で納豆加工適性は「コスズ」並に良好です（図2）。

栽培適地は東北全域で、「コスズ」との置換えを含めて普及が見込まれます。なお、ダイズシストセンチュウに弱いため、連作やセンチュウ汚染圃場での栽培はさける必要があります。

今後、「すずほのか」が、「コスズ」に替わって新たな東北ブランドに成長することを期待しています。

## 《「すずほのか」の誕生》

東北農業研究センターで東北地域向け納豆用極小粒大豆品種として「コスズ」を育成してから20年が経ち、宮城県、秋田県、岩手県を中心に広く普及しています。しかし、「コスズ」は納豆加工適性が良好なもの、東北地方の主要な病害であるダイズモザイク病に対する抵抗性が不十分で、また倒伏しやすく、栽培しにくいのが短所でした。それに対し、本年から品目横断的経営安定対策が導入されたことから、大豆生産の規模拡大に対応可能な、機械化適性が高く栽培しやすい品種が一層求められています。

そこで、「コスズ」の長所である納豆加工適性や極小粒性を維持しつつ、栽培上の短所であるダイズモザイク病抵抗性と耐倒伏性を強化し、併せて早熟化を図り、栽培しやすい納豆用の極小粒品種「すずほのか」を育成しました。

「すずほのか」は、ダイズモザイクウイルス抵抗性で耐倒伏性、小粒、良質の「刈交778F<sub>5</sub>」を母に、納豆用の極小粒品種「コスズ」を父とする交配組合せにより育成しました。品種名「すずほのか」は、莢が鈴なりに稔り、中の大豆が香りがぐわしい納豆になるよう願って命名しました。

## 《「すずほのか」の特性》

「すずほのか」の成熟期は「コスズ」より1～2週間ほど早く、収量は「コスズ」並です。主茎長は「コスズ」よりも短く、蔓化・倒伏が少ないことから（写真1、図1）、コンバイン収穫がしやすくなりました。また、ダイズモザイクウイ

